

一つになった成人式 二十歳の決意 新たに

「成人の日」前日の1月7日、登米市成人式が登米総合体育館で開催されました。合併後、初めて9地区の新成人が一堂に会した今年の成人式は、昨年より42人少ない1,268人(男650人、女618人)が対象。このうち会場には、晴れ着に身を包んだ1,051人の新成人が出席しました。式典では、佐々木拓真さん(津山)と武山智恵さん(豊里)が大人になった自覚と責任を感じながら誓いの言葉を披露。新成人を代表して、佐藤翔さん(豊里)、須藤友佳理さん(登米)、佐藤菜美さん(中田)の3人が二十歳の主張を述べました。



佐藤 翔さん (豊里町大曲)

今まで育ててくれてありがとう これからも良き理解者でいてほしい

わたしは現在、鉄板加工の仕事をしていて今年4月で入社3年目になります。高校を卒業するまで、たくさんの人に迷惑を掛けてしまったの

で、「早く一人前になって恩返しをしたい」という考えで就職しましたが、入社後すぐに現実は甘くないということに突き付けられました。

いざ仕事をやってみると、仕事のほかに人間関係という想像を超える大きな壁にぶつかり、途中で何度か辞めようと思ったこともありましたが、現実から逃げずに今日まで頑張ってきて本当に良かったと思っています。これからのことはまだ分かりませんが、仕事を頑張ってきたことで多少は自信ができました。それを土台として地に足をしっかりと付け、早く一人前になりたいという自分の夢のために、地道に歩んで行こうと思います。

今までわたしを育ててくれたお父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、本当にありがとう。いつも意地ばかり張って素直になれなかった自分を許してください。しかられているときはいつも反発していたけれど、本当はうれしかったのです。



「素晴らしい21世紀を築き上げたい」と誓った佐々木さんと武山さん

今までの失敗を糧に 社会人として責任を持った行動を

これまでの20年間で振り返っていると、わたしは自分から率先して行動せず、人の意見や周りに流されてきたような気がします。

仕事では、入社当初には職場の先輩などへ逐一聞いて確認していたことも、慣れてくるにつれて徐々に甘えや適当さが目立ち、いざというときに何度かミスをしたことがありました。今になって「あのときこうしておけば未然にミスを防げたのに」と、自分のふがいなさを深く後悔しています。

今までは「高卒だから」、「まだ子どもだから」と大目に見てもらい許されてきたことも、これからは一人の大人として見られるのだから、そ

ういう甘えは通用しません。まだまだ未熟なわたしですが、これからは今までの失敗を糧に、社会人としての自覚を持ち、責任のある行動をとっていききたいと思っています。成人式を無事に迎えることができただけ、今まではわたしを大切に育ててくれた家族、楽しい日々を一緒に過ごした友人、そしていろいろな場面で支えていただいた方々全員のおかげだと思っています。

こういう方々がいてくれたからこそ、今までどんなに辛く苦しいときでも前向きに生きていくことができました。本当にありがとうございます。そして、これからもよろしくお祈りします。



須藤 友佳理さん (登米町前舟橋)

自分のペースで一歩ずつ しっかりと目標に向かっていきたい

このたびは、心のこもった素晴らしい式を開催していただき、また皆さんから心温まる言葉とお祝いもちょうだいしたことに、心から感謝しています。

登米市誕生後、初めての市全体での成人式となり、たくさん仲間とともに、今日のこの日を迎えることができたことを大変うれしく思っています。

成人式を迎えた今、大人の仲間入りができたといううれしさとともに、十代の枠から外れ、すべての場面で自分の発言や行動に対する責任の重さを強く感じています。これから先、仕事をしていきながら人間関係を築いていく上で、現実

や社会の厳しさに苦戦することもあるかもしれません。わたしのペースで一歩ずつ、しっかりと目標に向かって進んでいきたいと思っています。

今はまだ、気分ばかり大人で中身はまだまだ中途半端なわたしですが、人の痛みが分かるような大人になりたいと思います。

わたしを産み育ててくれた両親、いつもそばにいてくれた友達、先生、地域の方々、皆さんからの励ましと支えがあったからこそ、この日を迎えることができました。本当にありがとうございます。そして、今後とも変わらぬご指導、ご厚誼のほどよろしくお祈りいたします。



佐藤 菜美さん (中田町南加賀野)